

みなさんこんばんは

今日から10月、そして後期が始まります。

気持ちを新たにして、引き続き学校生活に前向きに取り組んでください。

さて、秋というと「読書の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」などといろいろと言われることを皆さんも聞いたことがあるでしょう。

今日は、「読書の秋」について話をします。

こうして校長として皆さんの前で話をするのは3回目ですが、これまでの話で覚えていることがあるでしょうか。私の場合には、高校時代は40年前なので覚えていることはないと言いたいところですが、一つだけ思いだせることがあります。

それは、校長先生が「本を読みなさい。若い頃の読書、読書の履歴は財産である」と話をしたことでした。そこでの推薦図書が岩波新書の「一日一言」京都大学の桑原武夫先生という文化を研究する先生の本でした。

高校生になれば岩波新書くらい数冊読んでないようではダメであるとのことだったので、すぐに書店に行き、買い求めました。岩波新書は難しい本が多く、なかなか読むことができないものですが、この本は、一ページに一つの偉人たちの名言やエピソードが載っており、自分の誕生日とか、特別な日には何があるかとか見られるのでとても読みやすかったと思い出します。

その本が今でも実家にあって、自分の高校時代を思い出す本でもあり、ここからスタートしたことを確認する本でもありました。これです。1977年に買ったと書いてありますから、みなさんの生まれる前ですね。

さて、皆さんには、岩波新書のような本でなくてもいいと思います。高校の時に、何か自分の財産になるような本と出会えると思いでや幸せが、本の数だけ増えると思います。こんなふうに秋に相應しいことをしてくれたらと思います。読書はそのひとつです。いまは携帯でなんでも情報を得ることができ、便利でいいのですが、何か、この時期の思い出になるような本との出会いをしてみてください。

きっと、何年か後に、皆さんの知の財産、思い出などになっていることでしょう。

この秋によき時間の過ごし方を期待しています。